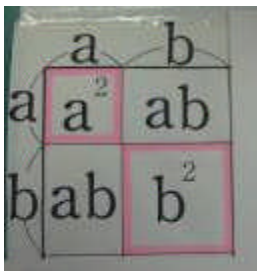


# 知的好奇心をくすぐる(!?)教材27

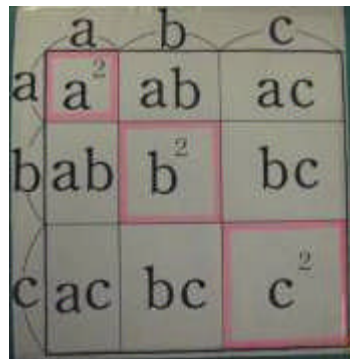
## 『色を活用した式の展開』

$(a+b)^2$ ,  $(a+b+c)^2$ ,  $(a+b)^3$  などの展開式を、 $a$ ,  $b$ ,  $c$ を正として、  
 一辺の長さが  $a+b$  または、 $a+b+c$  の正方形の面積や、  
 一辺の長さが  $a+b$  の立方体の体積 というように、  
 下の写真のような図形的なイメージをもてば、更に発展して  
 $(a+b+c+d)^2$ ,  $(a+b+c+d+e)^2$  や  $(a+b+c)^3$  の展開式も理解しやすくなります。

●  $(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$



●  $(a+b+c)^2 = a^2 + b^2 + c^2 + 2(ab+bc+ca)$



係数の和が  
 $1+1+1+2+2+2 = 9$   
 となることは、  
 この図からも納得できる  
 と思います。  
 縦方向にも横方向にも3つに  
 分けたのだから、  
 $3 \times 3 = 9$  で、  
 9が係数の和となります。

●  $(a+b)^3 = a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3$



係数の和が  $1+3+3+1 = 8$  となることは、  
 この直方体の個数からも納得できると思います。  
 縦方向にも横方向にも水平方向にも2つに分けたのだから、  
 $2 \times 2 \times 2 = 8$  で、8が係数の和となります。

しかし、このような図形的なイメージを持たせる視覚化教具の利用だけでは、

$(a+b)^4$ ,  $(a+b)^5$  などの  $(a+b)^n$  や、

$(a+b+c)^4$ ,  $(a+b+c)^5$  などの  $(a+b+c)^n$  ( $n$ は自然数)

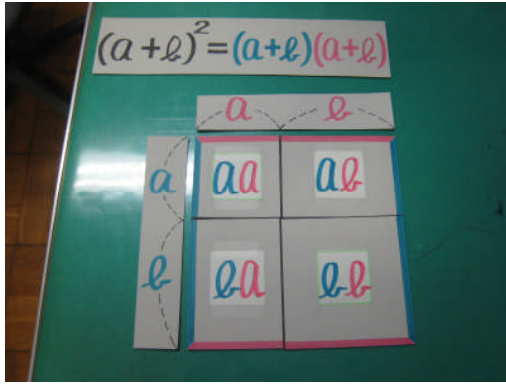
つまり、 $(a_1 + a_2 + a_3 + a_4 + \dots + a_{m-1} + a_m)^n$  の展開式は理解しにくいと思います。

そこで、

**その教具に色を活用して、式の展開** について考えます。

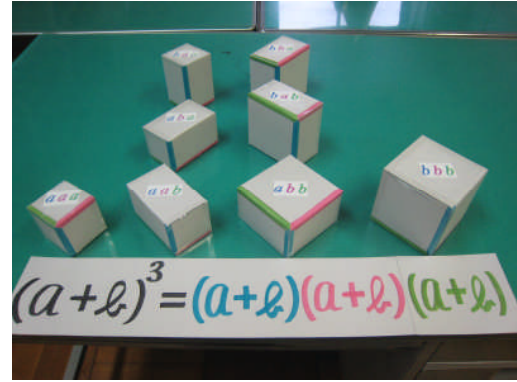
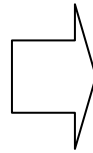
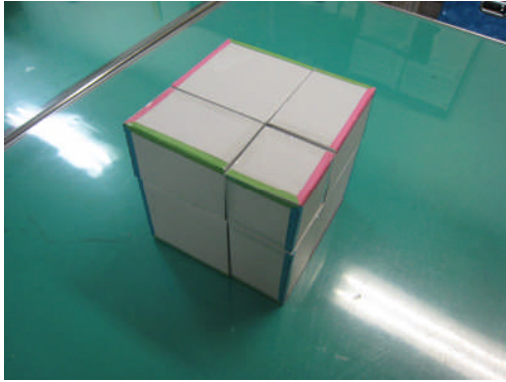
$(a+b)^n$  型

●  $(a+b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$



$$\begin{aligned}
(a+b)^2 &= (a+b)(a+b) \\
&= aa + ab + ba + bb \\
&= {}_2C_0 a^2 + {}_2C_1 ab + {}_2C_2 b^2 \\
&= a^2 + 2ab + b^2
\end{aligned}$$

●  $(a+b)^3 = a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3$



$$\begin{aligned}
(a+b)^3 &= (a+b)(a+b)(a+b) \\
&= aaa + \begin{array}{|c|} \hline aab \\ \hline aba \\ \hline baa \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline abb \\ \hline bba \\ \hline bab \\ \hline \end{array} + bbb \\
&= {}_3C_0 a^3 + {}_3C_1 a^2b + {}_3C_2 ab^2 + {}_3C_3 b^3 \\
&= a^3 + 3a^2b + 3ab^2 + b^3
\end{aligned}$$

●  $(a+b)^4 = a^4 + 4a^3b + 6a^2b^2 + 4ab^3 + b^4$

$$\begin{aligned}
 (a+b)^4 &= (a+b)(a+b)(a+b)(a+b) \\
 &= (aa+ab+ba+bb)(aa+ab+ba+bb) \\
 &= \begin{array}{l}
 \underline{aaaa} + \underline{aaab} + \underline{aaba} + \underline{aabb} \\
 + \underline{abaa} + \underline{abab} + \underline{abba} + \underline{abbb} \\
 + \underline{baaa} + \underline{baab} + \underline{baba} + \underline{babb} \\
 + \underline{bbaa} + \underline{bbab} + \underline{bbba} + \underline{bbbb}
 \end{array}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 &= \begin{array}{cccccc}
 \text{aaaa} & + & \begin{array}{|c|c|c|c|} \hline \text{aaab} \\ \text{aaba} \\ \text{abaa} \\ \text{baaa} \\ \hline \end{array} & + & \begin{array}{|c|c|c|c|} \hline \text{aabb} \\ \text{abab} \\ \text{abba} \\ \text{baab} \\ \text{baba} \\ \text{bbab} \\ \hline \end{array} & + & \begin{array}{|c|c|c|c|} \hline \text{abbb} \\ \text{babb} \\ \text{bbab} \\ \text{bbba} \\ \hline \end{array} & + & \text{bbbb}
 \end{array}
 \end{aligned}$$

$$= {}_4C_0 a^4 + {}_4C_1 a^3b + {}_4C_2 a^2b^2 + {}_4C_3 ab^3 + {}_4C_4 b^4$$

$$= a^4 + \underline{4} a^3b + \underline{6} a^2b^2 + \underline{4} ab^3 + b^4$$

4色のうち、 $a$ となる3色を選ぶと考えるてもよい。

$a^3b$  の項の係数が4となるのは、青桃緑赤の4色のうち、 $b$ となる1色を選ぶと考えるからである。つまり、

$$\underline{{}_4C_1 = 4}$$

$a^2b^2$  の項の係数が6となるのは、青桃緑赤の4色のうち、 $b$ となる2色を選ぶと考えるからである。つまり、

$$\underline{{}_4C_2 = 6}$$

$ab^3$  の項の係数が4となるのは、青桃緑赤の4色のうち、 $b$ となる3色を選ぶと考えるからである。つまり、

$$\underline{{}_4C_3 = 4}$$

このように、 $(a+b)^n$  の  $a^{n-k}b^k$  の項の係数は、 $n$  色のうち、どの  $k$  色が  $b$  で、残りの  $n-k$  色が  $a$  であるか、その場合の数が係数になるので、 $n$  色から  $b$  として  $k$  色を選ぶ場合の数を考えればよい ( $a$  の色は、 $b$  の色が決まれば自動的に決まる) ことから、 $a^{n-k}b^k$  の項の係数は  ${}_nC_k$  になることが理解できると思います。



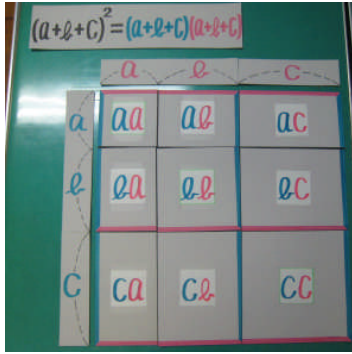
## 二項定理

$$(a+b)^n = {}_nC_0 a^n + {}_nC_1 a^{n-1}b + \dots + {}_nC_k a^{n-k}b^k + \dots + {}_nC_n b^n$$

$$= \frac{n!}{0!n!} a^n + \frac{n!}{1!(n-1)!} a^{n-1}b + \dots + \frac{n!}{k!(n-k)!} a^{n-k}b^k + \dots + \frac{n!}{n!0!} b^n$$

**$(a+b+c)^n$  型**

●  $(a+b+c)^2 = a^2 + b^2 + c^2 + 2(ab+bc+ca)$



$$\begin{aligned} (a+b+c)^2 &= (a+b+c)(a+b+c) \\ &= aa + bb + cc + ab + ba + bc + cb + ca + ac \\ &= \frac{2!}{2!0!0!}a^2 + \frac{2!}{0!2!0!}b^2 + \frac{2!}{0!0!2!}c^2 + \frac{2!}{1!1!0!}ab + \frac{2!}{0!1!1!}bc + \frac{2!}{1!0!1!}ac \end{aligned}$$

●  $(a+b+c)^4 = ?$

$$\begin{aligned} (a+b+c)^4 &= (a+b+c)(a+b+c)(a+b+c)(a+b+c) \\ &= (aaaa+aaab+aaac+baaa+baab+baac+caaa+caab+caac+cbaa+cbab+cbac+ccaa+ccab+ccac) \\ &= \dots \\ &= a^4 + b^4 + c^4 + 4a^3b + 4b^3c + 4c^3a + 4ab^3 + 4bc^3 + 4ca^3 + 6a^2b^2 + 6b^2c^2 + 6c^2a^2 + 12a^2bc + 12ab^2c + 12abc^2 \end{aligned}$$

このように、 $(a+b+c)^n$  の  $a^p b^q c^r$  の項の係数は、  
 $n$  色のうち、どの  $p$  色が  $a$  で、残りの  $n-p$  色のうち、どの  $q$  色が  $b$  で、さらに残りの  $n-p-q$  色が  $c$  となるか、その場合の数が係数になるので、 $n$  色から  $a$  として  $p$  色を選び、残りの  $n-p$  色から  $b$  を選ぶ場合の数と考えればよい ( $c$  の色は、 $a, b$  の色が決まれば自動的に決まる) ことから、  
 $a^p b^q c^r$  の項の係数は  ${}_n C_p {}_{n-p} C_q$  になることが理解できると思います。

また、1番目が青、2番目が桃、...と決めておけば、  
 $p$  個の  $a$  と  $q$  個の  $b$  と  $r$  個の  $c$  の合計  $n$  個の同じものを含む順列を考えればよいことから、  
 $a^p b^q c^r$  の項の係数は  $\frac{n!}{p!q!r!}$  となることも理解できると思います。

**$(a+b+c)^n$  の展開式における  $a^p b^q c^r$  の項は**  
 $\frac{n!}{p!q!r!} a^p b^q c^r$  ただし、 $p+q+r=n$  ( ${}_n C_p {}_{n-p} C_q {}_{n-p-q} C_r a^p b^q c^r$  つまり  ${}_n C_p {}_{n-p} C_q a^p b^q c^r$  としてもよい。)

**この他にも、色を活用した教材を考えてみませんか？**

**参考**

$(a_1 + a_2 + a_3 + a_4 + \dots + a_{m-1} + a_m)^n$  を展開して整理したときの、

① 項の個数      ② 各項の係数の和      について考えます。

① 項の個数 について

各項は、 $a_1^{n_1} a_2^{n_2} a_3^{n_3} a_4^{n_4} \dots a_{m-1}^{n_{m-1}} a_m^{n_m}$   
 $\left[ \begin{array}{l} \text{ただし、} n_1 + n_2 + n_3 + n_4 + \dots + n_{m-1} + n_m = n \\ n_1, n_2, n_3, n_4, \dots, n_{m-1}, n_m \text{ は負でない整数} \end{array} \right]$  と表せるので、

項の個数は、

$n_1, n_2, n_3, n_4, \dots, n_{m-1}, n_m$  は負でない整数として、  
 $n_1 + n_2 + n_3 + n_4 + \dots + n_{m-1} + n_m = n$  を満たす  $(n_1, n_2, n_3, n_4, \dots, n_{m-1}, n_m)$   
 が何個あるかを考えればよいことになります。


よって、○が  $n$  個、| が  $m-1$  個の同じものを含む順列を考えることと同じなので、  
 項の個数は、 ${}_{n+m-1}C_n$  になります。

② 各項の係数の和 について

$m^n$  であることは、簡単に分かると思います。

具体例を表にまとめました。

	① 項の個数	② 各項の係数の和
$a+b$	2 ( $= {}_2C_1$ )	2 ( $= 2^1 = {}_1C_0 + {}_1C_1$ )
$(a+b)^2$	3 ( $= {}_3C_2$ )	4 ( $= 2^2 = {}_2C_0 + {}_2C_1 + {}_2C_2$ )
$(a+b)^3$	4 ( $= {}_4C_3$ )	8 ( $= 2^3 = {}_3C_0 + {}_3C_1 + {}_3C_2 + {}_3C_3$ )
$(a+b)^4$	5 ( $= {}_5C_4$ )	16 ( $= 2^4 = {}_4C_0 + {}_4C_1 + {}_4C_2 + {}_4C_3 + {}_4C_4$ )
⋮	⋮	⋮
$(a+b)^n$	$n+1$ ( $= {}_{n+1}C_n$ )	$2^n$ ( $= {}_n C_0 + {}_n C_1 + {}_n C_2 + \dots + {}_n C_{n-1} + {}_n C_n$ )

 二項定理  $(a+b)^n = \sum_{k=0}^n {}_n C_k a^k b^{n-k}$  に  
 $a=b=1$  を代入したものです。

	① 項の個数	② 各項の係数の和
$a^2$	1 ( $= {}_2C_2 = \sum_{k=1}^1 k$ )	1 ( $= 1^2$ )
$(a+b)^2$	3 ( $= {}_3C_2 = \sum_{k=1}^2 k$ )	4 ( $= 2^2$ )
$(a+b+c)^2$	6 ( $= {}_4C_2 = \sum_{k=1}^3 k$ )	9 ( $= 3^2$ )
$(a+b+c+d)^2$	10 ( $= {}_5C_2 = \sum_{k=1}^4 k$ )	16 ( $= 4^2$ )
$(a+b+c+d+e)^2$	15 ( $= {}_6C_2 = \sum_{k=1}^5 k$ )	25 ( $= 5^2$ )
$\vdots$	$\vdots$	$\vdots$
$(a_1 + a_2 + \dots + a_m)^2$	$\frac{m}{2}(m+1)$ ( $= {}_{m+1}C_2 = \sum_{k=1}^m k$ )	$m^2$

	① 項の個数	② 各項の係数の和
$(a_1 + a_2 + a_3 + a_4 + \dots + a_{m-1} + a_m)^n$	$n+m-1 C_n$	$m^n$